



がっこう  
学校だより

がっこう  
2月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/toyooka/>

TEL045-581-3248

がっこうきょういくもくひょう まな あ たか あ あす ひら とよおか こ  
学校教育目標：【学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子】

こころ たいせつ  
「心のつながり」を大切に

ふくこうちょう まつむら ひろゆき  
副校長 松村 博行

1月21日より「まん延防止等重点措置」が県内にも適用され、未だに新型コロナウイルス第6波の収束が見えない中で2月のスタートとなります。学校でも、引き続き感染症対策を徹底しながら教育活動を進めてまいります。また、当面の間は、異学年が混じっての活動は行わないものとし、2月に予定していました委員会活動やクラブ活動は実施を見合わせることにしました。ご理解をよろしくお願いいたします。

さて、先日校内を見回っていると、6年生が体育でソフトバレーボールの学習を行っていました。バレーボールは、本来は1チーム6人または9人でプレーするスポーツですが、みんながボールに触れるために3人制で行い、レシーブやトスの場面はボールをキャッチしてつなぐという、簡易的なルールを採用しての学習でした。学校の体育では、みんなが活躍したり安心して楽しんだりすることを目的として、このようにルールを工夫して取り組むことがよくあります。簡易的なルールといっても、3人が確実にアタックまでもっていくことは決して簡単なことではありません。しかし、多くのチームが、まるで本当のバレーボールを見ているかのように、1人目（レシーバー）、2人目（セッター）、3人目（アタッカー）とテンポよくボールをつなぐことができているのです。私はとても感心し、秘訣はどこにあるのだろうかとおもっています。観察していると、つなぐときに「いち、に、さん」と声を出していたり、つぎの人の名前を呼んでいたりと、周りの子が指示を出していたりといったさまざまな工夫をしていることがわかりました。3人が上手にボールをつないでアタックが決まったときに、みんながうれしそうにしていた姿がとても印象的でした。つながったのはボールですが、同時に心がつながったような感覚をもったのではないかと思います。



1月13日の5年生体験学習においても「つながり」を実感する場面がたくさんありました。行先は、ソレイユの丘と新江ノ島水族館で、現地ではそのほとんどがグループ行動でした。一人ひとりの好みや考え方が違う中、よく相談し折り合いをつけながら協力して活動を楽しんでいる姿に高学年らしい心の成長を感じました。バスの車内やお弁当を食べるときは話をしないといった約束をしっかりと守りながらも、学年、学級のみみんなで出かけること、行動を共にすることに喜びを感じている様子が伝わってきました。学校に帰ってきたとき、「楽しかった」という声がたくさんあがっていましたが、ソレイユの丘でのアトラクションや水族館での見学が楽しかったことに加え、仲間とつながりをもちながら1日過ごせた充実感が、その大きな要因となっているように感じました。

「心のつながり」は、人に温かさをもたらし、日々の生活を豊かにするものであると私は感じています。しばらくは感染症対策として物理的距離を取りながらの生活が続きますが、そんな今だからこそ、「心のつながり」をより一層大切にしていきたいものです。子どもたちは、いよいよあと2か月で、進級や進学を迎えます。新年度に向けて力を高めていくとともに、今の仲間とのつながりを思い切り楽しみながら過ごす期間にしてほしいと願っています。